

特集

国際学会で発表しよう

その研究が、世界をつなぐ

研究成果を海外に向けて発信することは、わが国の看護研究の重要なテーマの1つになっています。このことは論文産生や投稿に限らず、海外を中心に行なわれる国際学会における発表も意味します。国際舞台に打って出て、世界の多種多様な研究に触れ、各国の研究者と肩を並べながら研究活動を広げ、推進し、世界の中で研究者としての立ち位置を築いていくことは、これからの研究者に不可欠のスキルになるかと思われます。

2017年、日本看護系大学協議会(JANPU)の国際交流推進委員会の企画により、「スマートな国際学会発表を目指して」と題する研修会が行なわれました。研修会では、「口頭発表」「ポスター」「国際会議への参加」など、さまざまな場で実際に発表を行なった研究者により、当時のプレゼンテーションを再現するような形で、そのプロセスと経験が紹介されるとともに、それぞれ指導にあたった教員からは、個々の指導のプロセスや国際学会で発表することの意義が示されました。

本特集は、この研修会の内容をベースに企画しました。研修会に登壇された先生方には、「教員の立場」「発表者の立場」それぞれの視点から改めてご執筆いただいています。国際学会発表に至るプロセスをはじめ、発表におけるTipsや、国際学会で発表することの醍醐味や意義、さらには指導する側が考えておくべきことなど、多様な角度から焦点が当てられます。これから国際学会発表に挑戦する方にも、これまでの経験を振り返りながらさらに精錬を図ろうと考えている方にも、本特集が国際学会発表の充実に向けた一助となれば幸いです。

特集は、研修会での発表をベースにした書下ろし原稿です。研修会での発表順とは異なっており、またそれぞれ「教員の立場から」「発表者の立場から」の順に掲載しています。

『看護研究』編集室